

所持、其後金田屋宗宅所持、其後道陳所持、其後信長公へ上リ、一亂ニ堀久太郎取、關白様へ上候、清香ノ内ヨリ、天下ニ松島松花三ヶ月ト三ツ名物ニ加ル事、清香ニテ猶名譽也、御茶ノ閑味、名人衆モ驚入、舊説御茶七斤入、

〔醒睡笑入〕茶之湯

慈照院殿○足利義政愛に思召る、壺あり、名をなにとかなづけん、と御工夫ある、ころは寛正貳年八月廿日、たれかある、今日は廿日かとお尋あれば、女房達聞もあへず、中々けふ初雁をき、まいらせたと申上られたり、あらおもしろの返事やとて、能阿彌にむかはせたまひ、

誰もきけ名づくる壺の口びらきけふはつかりの聲によそへて

とおほせあれば、能阿彌とりあへず、

初雁を聞へあげ、ることのはをいやめづらしき雲のうへまで

此由來により、初雁といふ壺ありとなん

〔總見記十五〕伊達別所飛驒國司等參味方事附御茶湯事

大坂ノ城中ヨリ、平井、矢木、金井ト云フ三人ノ者出京イタシ、御目見へ仕リ、○中略三好笑岩モ、天下

ニ隠レナキ三日月ト云フ葉茶壺ヲ指上ケリ、

〔總見記十七〕松永久秀父子御退治事

同年○天正五月十日ノ夜、城中内通ノ者寄手ト示シ合セ、散々ニ成果、終ニ松永本丸ノ殿守ニ取籠ル、

城兵死亡ノ者勝テ計フベカラズ、城介殿○織田信忠御使ヲ立ラレ、乍此上降參ニ於テハ助命有ベキ

ノ由ナリ、松永久秀御請ニ及バズ、臂骨トナルトイヘドモ降參セジト云云、久秀平生所翫葉茶壺

平蜘蛛ト云フ名物ヲ打碎ク、是ハ大臣家○織田信長常々乞求メラル、所ナリ、

〔總見記二十一〕高野聖被誅事附伊州退治事